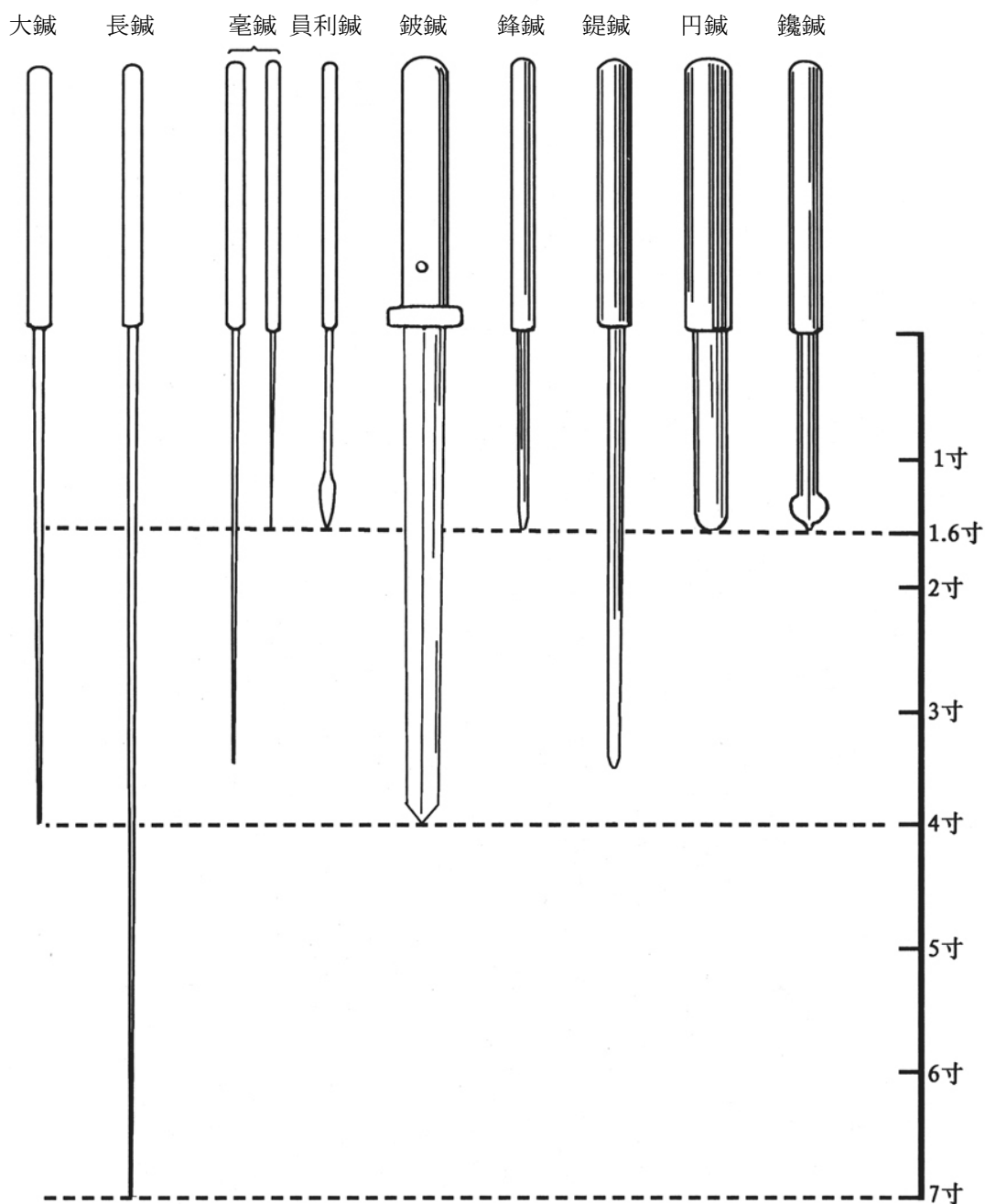


第 39 講 【 治療論 I 】 教科書 P.137~152

『 九鍼、古代刺法と鍼灸の補瀉法 』

1. 古代九鍼

：古代九鍼は《素問》《靈樞》に記載のある 2000 年以上前に中国で治療に用いられていた 9 種の鍼具である。[大 ・ 長 ・ 毫 ・ 円利 ・ 鈹 ・ 鋒 ・ 鍤 ・ 円 ・ 鑱] 鍼を含む。



《 九鍼図 》

『 古代九鍼のポイント 』

* 九鍼には大きく分けて 3 通りの使用法があり、その使用法に基づいて分類することができる。

- 刺入する鍼 : [毫 ・ 円利 ・ 長 ・ 大] 鍼
- 皮膚を破る鍼 : [鋒 ・ 鑱 ・ 鉞] 鍼
- 刺入しない鍼 : [鍉 ・ 円] 鍼

【 語呂 】 刺入する鍼 : 氷ちょうだい。(ごうりと読む)
 皮膚を破る鍼 : 方針は斬新
 刺入しない鍼 : 庭園

* 現代鍼への発展

- [毫] 鍼は現代の鍼の原型
- [鋒] 鍼は現代の三稜鍼の原型
- [鑱] 鍼は現代の梅花鍼の原型 といわれている。

2. 古代刺法

: 『 霊枢・官鍼篇 』 に記載のある 「 三刺 ・ 五刺 ・ 九刺 ・ 十二刺 」 を紹介する。

- (1) 三 刺 : 陰陽の邪気を出し、水穀の気の循環を良くする方法。
- (2) 五 刺 : 五臓に関連する部位・病証に適応する五種の刺法である。

[関 ・ 豹文 ・ 合谷 ・ 半 ・ 輪] 刺を含む。

『 五刺の要点 』

刺法名	五 臓	対象組織	主 治	命名の由来・操作法
関 刺	肝	関 節	筋 痺	関節の筋を刺すから関刺 * 肝と筋・関節
豹文刺	心	血 脈	瘀 血	浅く沢山脈にあて血をにじませる ⇒ 豹文 * 心と血脈
合谷刺	脾	肌 肉	筋肉の痺	三本の鍼を刺すさまが谷間のように見えるから * 脾と筋肉
半 刺	肺	皮 膚	皮 気	刺したかどうか分からない程浅く刺すことから * 肺と皮膚
輪 刺	腎	骨	骨 痺	まっすぐ深く刺し骨に至らせる * 骨と腎 (= 輪)

(3) 九 刺 : [経・絡・輸・遠道・大瀉・分・焮・巨・毛] 刺を含む。

【 語呂 】 経絡の所以は大分最古の毛

- ① [遠道刺] : 「上病下取」、主に下合穴を用いる。
- ② [巨 刺] : 「右病左取、左病右取」、経絡が病んだときに用いる。
- ③ [焮 刺] : 燔鍼（焼き鍼＝大鍼を熱したもの）で刺す、筋痺を治す。
- ④ [輸 刺] : 五臓の病の時に輸穴（榮・兪・原穴）を刺す。
- ⑤ [大瀉刺] : 大膿を鉞鍼で瀉す。
- ⑥ [経 刺] : 経脈の病 ⇒ 経脈を刺す。
- ⑦ [絡 刺] : 絡脈の病 ⇒ 絡脈を刺す。
- ⑧ [分 刺] : 分肉の間を刺す。
- ⑨ [毛 刺] : 皮膚の浮痺（知覚異常・神経痛）の時に皮毛を刺す。

(4) 十二刺 : [輸・恢・傍鍼・贊・偶・直鍼・陰・斉・揚・浮・短・報] 刺を含む。

【 語呂 】 愉快的坊さん、愚直な院生、養父を探訪

- | | | |
|--|---|----------|
| <ol style="list-style-type: none">① [偶 刺] : 心痺に用いる。胸部と背部の前後から一鍼ずつ刺す。② [恢 刺] : 筋痺に用いる。③ [短 刺] : 骨痺に用いる。④ [傍鍼刺] : 経過が長く同じ部位の痺に用いる。 | } | 痺 証 に用いる |
| <ol style="list-style-type: none">⑤ [斉 刺] : 寒気の範囲が狭く深部にあるときに用いる。⑥ [揚 刺] : 寒気の範囲が広く大きいときに用いる。⑦ [浮 刺] : 筋肉が冷えてひきつるときに用いる。⑧ [陰 刺] : 寒厥に用いる。⑨ [直鍼刺] : 寒気の浅いときに用いる。 | } | 寒 気 に用いる |
- ⑩ [輸 刺] : 気の働きの盛んで熱のあるときその熱を瀉す刺法。
 - ⑪ [報 刺] : 痛むところがあちこち動いて定まらないときに用いる。
 - ⑫ [贊 刺] : 癰腫に用いる。

『 古代刺法のポイント 』

- * 三刺は三種類の刺法ではない。
- * 3つの輸刺
- * 反対側治療
 - 遠道刺 ----- “ 上病下取 ”
 - 巨刺・[繆]刺 ----- “ 左病右取 、 右病左取 ”

3. 鍼・灸の補瀉法

『 鍼の補瀉法 』

	補 法	瀉 法
呼 吸	呼気に刺入、吸気に抜鍼	補法の逆
迎 随	流注の方向に合わせて刺入する	流注の方向に逆らって刺入する
提按・開闔	抜鍼後すぐに鍼孔を閉じる	抜鍼後鍼孔を閉じない
刺入・抜鍼速度	徐刺徐抜	速刺速抜
鍼の太さ	細い鍼を用いる	太い鍼を用いる
浅 深	浅く入れてから深くする	深く入れてから浅くする
寒 熱	刺入した鍼下の部が熱する	刺入した鍼下の部が冷える
搓 転	患者の左側では右回転、 右側では左回転させる	補法の逆
揺 動	刺手を震わせて気を促す	押手を揺るがせて気を漏らす

『 灸の補瀉法 』

	補 法	瀉 法
艾 質	良質の艾を用いる	良質艾でなくてもよい
堅 さ	柔らかく捻る	硬く捻る
密 着 度	軽く付着させる	密着させる
底 面	狭くする	広くする
燃 焼	自然に燃やす	風を送って速く燃焼させる
熱 さ	緩やかな熱さ	激しい熱さ
艾の大小	小さい艾を用いる	大きい艾を用いる
続 行	灸灰に重ねてすえる	灰を取り除いてすえる